

# 2023 年度研究データ 作業部会活動報告書

JPCOAR 研究データ作業部会

## 内容

1. はじめに.....	2
2. 活動概要.....	3
2.1 研究データ登録パターンの整理 .....	3
2.2 機関リポジトリのユースケース整理・活用 .....	4
2.3 研究データ教材作成.....	5
2.4 その他 .....	6
3. 2024 年度活動計画案.....	7
4. 付録.....	8
4.1 活動スケジュール（全体） .....	8
4.2 作業部会メンバー（2023 年度） .....	8

## 1. はじめに

研究データ作業部会は、「オープンアクセスリポジトリ推進協会(JPCOAR)活動方針(2022-2026年)」に示された重点活動項目のうち、「2. 会員機関が公開するコンテンツの多様化と利活用 <コンテンツ>」に関連する活動を実施している。2023年度の活動計画は以下の通り。

研究データ作業部会の活動(2023年度)	
RDM教材作成	<ul style="list-style-type: none"><li>・国内のニーズに即した新たなRDM教材の作成に向けて、予備調査等の準備を進める。</li><li>・現行のRDM教材の利活用拡大に繋がる事業を検討・実施するとともに、学認LMS上のRDM教材の内容・運用面について協力する。</li></ul>
RDM事例形成	<ul style="list-style-type: none"><li>・2022年度の機関向けRDMアンケートの結果を踏まえて、会員機関によるRDMに役立つ事業を検討し、実施する。</li><li>・AXIES-RDM部会等の外部機関と連携しながら、RDM事例形成に繋がる事業を展開する。</li></ul>

上記活動計画を受け、2023年度は「研究データ登録パターンの整理」「機関リポジトリのユースケース整理・活用」「研究データ教材作成」の3チームに分かれて活動を展開した。

## 2. 活動概要

### 2.1 研究データ登録パターンの整理

#### ■活動内容

本チームでは、機関リポジトリへの研究データ登録マニュアル開発に向け、登録事例を有する機関に対してのヒアリングを実施した。ヒアリングは2024年2月～3月にかけて実施し、事前質問の提示、及びヒアリングシートを用いた詳細事項の確認の2段階に分けて行った。

カテゴリ	記述
0. 広報・相談窓口・アドボカシー・研修	・研究データ登録の広報を行っているかどうかなど
1. 相談・参照	・問合せ先の情報
2. 申請書・ファイル提出 (登録ルート整理でカバーできる項目)	・申請書の有無、ファイル提出方法 ・登録時の提出物は何があるか ・メタデータの項目、研究者にチェックしてもらう事項はなにか
3. 受付・申請内容確認申請内容確認のポイント	
4. ファイル確認、メタデータ整理	・ファイル確認においてはどんなポイントで確認しているか ・開けないファイルの中身を確認したい状況はあったか
5. メタデータ入力・DOI付与	・申請書から図書館側で補記する項目はあるか
6. 登録・公開	・登録時にファイルのバックアップをとるなどしているか ・登録時の単位はどのように決めたか
7. 公開後の対応	・部署内での情報共有や教員への確認など ・一般的な論文登録と異なる点があるかどうか
8. データ連携	・リポジトリシステムと連携しているデータベースがあるか
9. 関連論文情報やバージョンのアップデート	・メタデータを継続的に運用する仕組みなど ・データのバージョン管理はどうしているか
10. その他	・DMP作成へのフォローがある又は予定しているか ・「研究データの公開・提供場所」欄への記載可否、容量等スペック、助成期間中に他機関へ移動した場合のデポジット可否などの方針を示しているか

表. ヒアリングシートによる確認事項一覧

#### ■次年度の活動（案）

2023年度に実施したヒアリング結果をもとに、研究データ登録マニュアル（草案）の作成を実施する。草案作成に当たっては、必要に応じて追加のヒアリングを実施するほか、JPCOAR参加機関による草案のレビューを行う。

## 2.2 機関リポジトリのユースケース整理・活用

### ■活動内容

本チームでは、機関リポジトリにおける研究データの取り扱いについてのモデルとなるユースケースの策定に向け、実態を把握するためのアンケート調査を実施した。アンケート調査は2024年2月中に実施し、同一機関からの重複回答を除き、357機関から回答があった。アンケートの構成は以下のとおり：

#### <基礎情報>

質問数／所要時間：最大26問／約40分

セクション1: メールアドレス・回答機関の基本情報 (Q1, Q2)

セクション2: 機関リポジトリでの論文の登録 (Q3~Q9)

セクション3: 機関リポジトリでの研究データの登録 (Q10~Q17)

セクション4: 外部リポジトリでの研究データの登録 (Q18~Q23)

セクション5: DMPと機関リポジトリ (Q24, Q25)

セクション6: 機関リポジトリでの研究データ登録について関心のあること (Q26)

さらに、2023年11月に公開された「公的資金による学術論文等のオープンアクセスの実現に向けた基本的な考え方」にある論文及び根拠データの即時公開に関わる部分に焦点を当て、集計結果を速報的にまとめた。以下に要点を示す：

- ▶ 機関リポジトリへ外部ジャーナルの論文を登録している事例は全回答のうち40.6%であり、定型的な登録業務として一定程度根付いていると評価できる。しかしながら、外部ジャーナルの論文を登録していると回答した機関であっても、自組織の教員・研究者が第一著者の場合に登録の依頼を行う機関は116機関(80.0%、全体の32.5%)、責任著者の場合に依頼を行う機関は102機関(70.3%、全体の28.6%)にとどまっていた。また、登録フローについては「紀要やジャーナルの編集者から都度連絡をもらう」(75.1%)、「教員からの申し出を待つ」(54.6%)が主流であり、「文献データベースを検索する」(11.2%)、「researchmapや機関内の研究業績管理システムのデータを利用する」(9.2%)といった、登録担当者が能動的に登録対象となる論文を探索する事例は少ない。
- ▶ 論文の根拠データの登録があると回答したのは全体の8.7%であり、かつ機関リポジトリ以外の場所に登録された研究データを機関リポジトリに登録している事例は全体の0.8%に留まった。自由記述では登録事例の紹介や共有を求める回答も多く、現時点では研究データの登録自体を、論文の登録と同様の定型的な登録業務に落とし込むことができる状態には至っていないと考えられる。

### ■次年度の活動（案）

各機関からの回答を詳細に分析し、研究データの登録の問題となっている点を洗い出した上で、具体的な登録事例の聞き取りを行い、研究データ登録のユースケースの策定を行う。

### 2.3 研究データ教材作成

#### ■活動内容

本チームでは、「AI等の活用を推進する研究データエコシステム構築事業」において進められている人材育成（特に教材作成）との連携を意識して、以下の活動を行った。

- ▶ 大阪大学で作成した「研究データ管理基礎編教材（全般）」の各トピック（項）に対して、「研究データ管理支援人材に求められる標準スキル」の紐付け作業を分担して実施した。具体的には、大阪大学で実施した紐付け結果に対して、各メンバーが割り当てられた担当トピック内のスキルの過不足を確認した。
- ▶ 大阪大学で作成した「研究データ管理基礎編教材（全般）」の各トピック（項）に対して、確認問題を作成した。大阪大学内で実施されている確認問題に加え、より充実した確認問題を整備した。

**標準スキルの整理（研究データ管理全般編）**

- JPCOAR研究データ作業部会と協働
- 各Topic、Book毎にスキルを紐付け⇒**将来的なバッジ付与やカリキュラム提示に必要**

管理No	Book_No	Book_title	skill_Book	topic_no	topic_title	skill_topic	skill_slide
1	01	研究データマネジメントを知る	G00000016 G00000017 G00000021 G00000023 G00000025 G00000026 G00000027 G00000028 G00000029	2023_RDMALL1_1	オープンサイエンス時代における研究データマネジメントの基礎について学ぶ	0	0
2				0	0		
3				0	0		
4				2023_RDMALL1_2	研究データマネジメントの必要性	G00000025 G00000026	G00000025 G00000026
5				2023_RDMALL1_3	研究データマネジメントの意義	G00000025 G00000026	G00000025 G00000026
6				2023_RDMALL1_4	研究データのライフサイクル	G00000026	G00000027
7				2023_RDMALL1_4		G00000026	G00000027
8				2023_RDMALL1_5	世界と日本におけるオープンサイエンスの動向	G00000028 G00000029	G00000028 G00000029
9				2023_RDMALL1_5		G00000028 G00000029	G00000028 G00000029
10				2023_RDMALL1_5	G00000023	G00000023	
11				2023_RDMALL1_6	研究者の負担軽減のための取組み	G00000016 G00000017 G00000021	G00000016 G00000017 G00000021

- 研究データ管理支援人材に求められる標準スキル (ver.0.1)  
国立情報学研究所オープンサイエンス研究データ基盤作業部会トレーニング・サブ・ワーキング・グループ

G00000016	ステークホルダー（組織内）	自組織における、「研究データ管理」の関連部門や、マネジメント層を含む関係者の事前把握（目を向ける・視野を広げる・照会する等）。
G00000017	照会（組織外）	自組織のみでは「対応できない」支援ニーズに応えるため、機関内外・部署内外の「適切な担当者」の事前把握（問い合わせる・協力する・連携を打診する等）。
G00000021	提供リソース	所属機関の提供するサービスや、外部機関の活用可能なサービス・フリーソフトについての理解。
G00000023	オープンサイエンス	ポリシー制定の背景となる政策動向（オープンサイエンスの潮流・研究公正等）や、個別の規定の「目的と意義」の理解。
G00000025	データマネジメントプラン（一般）	データマネジメントプランの意義、基本的な項目、主要な研究助成機関から求められるデータマネジメントプランについての理解。
G00000026	研究プロセス・ワークフロー（一般）	研究プロセス、研究者にとっての研究データおよび研究データ管理の位置づけ、必要な支援についての理解。
G00000027	研究データ（一般）	研究データのライフサイクルと、各段階において必要となる研究データ管理作業の理解。所属機関やプロジェクトが取り扱う研究データの特性や、管理時の注意点等の理解。
G00000028	研究データ管理（一般）	研究データ管理の概要と意義の理解。FAIR原則等、世界的な研究データ管理の原則や、現状の把握。所属機関の文脈（特化した分野や体制等）における、研究データ管理の意義や可能性、課題の把握。
G00000029	研究データ管理サービス（一般）	海外の事例等を含めた「研究データ管理サービスの全体像」の理解。研究データ管理サービスを構成する個別のサービスの内容についての理解。

図 紐付け結果の例示 (Book1「研究データマネジメントを知る」)

#### ■来年度の活動（案）

学認 LMS を活用した教材の全国展開に向けて、今年度整備した教材とスキル表を活用したカリキュラムを作成する。

## 2.4 その他

### □「国内機関における研究データ管理の取り組み状況調査」調査データの寄託

2020年及び2022年に実施した「国内機関における研究データ管理の取り組み状況調査」調査データを、SSJ データアーカイブ（東京大学 社会科学研究所）に寄託した。

2020年：<https://ssjda.iss.u-tokyo.ac.jp/Direct/gaiyo.php?eid=1587>

2022年：<https://ssjda.iss.u-tokyo.ac.jp/Direct/gaiyo.php?eid=1588>

2024年度前半を目途に、同データアーカイブが提供する簡易分析ツール（SSJDA Data Analysis）でも利用可能になる予定である。

### □International Symposium on Data Science 2023 での活動発表

国際会議「International Symposium on Data Science 2023」関連イベントへ部会メンバー1名（三上絢子）を派遣し、研究データ作業部会で実施した分析結果を紹介した。

イベント名：Persistent Identifiers Towards Open Science in Japan (and the Asia-Pacific Region)

日時：2023年12月12日(火) 15:30~17:00

場所：科学技術振興機構(JST) 東京本部別館（〒102-0076 東京都千代田区五番町7 K's 五番町ビル）

<https://datacite.org/event/persistent-identifiers-towards-open-science-in-japan-and-the-asia-pacific-region-japanese/>

発表資料：Mikami, A. An analysis of Research Data Publishing in Japanese Research Institutions: RORID and DataCite API Case Study. Persistent Identifiers Towards Open Science in Japan (and the Asia-Pacific Region), 2024.1.10, JST Tokyo Headquarters Annex, Tokyo, Japan. Zenodo. <https://doi.org/10.5281/zenodo.10494845>

### □大学 ICT 推進協議会 2023 年度年次大会への参加

大学 ICT 推進協議会 2023 年度年次大会へ部会メンバー1名（田中幸恵）を派遣し、情報収集を実施した。

イベント名：大学 ICT 推進協議会 2023 年度 年次大会

日時：2023年12月15日(金)

場所：名古屋国際会議場（〒456-0036 名古屋市熱田区熱田西町1番1号）

### 3. 2024 年度活動計画案

2023 年度に引き続き、「研究データ登録パターンの整理」「機関リポジトリのユースケース整理・活用」「研究データ教材作成」の 3 チームによる活動を実施する。また、外部機関との連携を強化する観点から、以下の 2 プロジェクトが議題に挙がっている。

**【新規】OER リポジトリでのコンテンツ収集検討(コンテンツ流通促進作業部会との連携プロジェクト)**  
コンテンツ流通促進作業部会から、OER リポジトリでのコンテンツ収集に関する協力依頼があった。2024 年度は活動の具体化に取り組む。

**【継続】RDM 大規模アンケート調査実施 (AXIES-RDM 部会/NISTEP との連携プロジェクト)**  
2020 年度、2022 年度に引き続き、「国内機関における研究データ管理の取り組み状況調査」を設計、実施する。2024 年度はポリシー策定状況の変化、GRDM 導入などがトピックになると考えられ、関係機関と調整のうえ実施体制を検討する。



## 4. 付録

### 4.1 活動スケジュール（全体）

- 2023年6月8日 第1回全体ミーティング（オンライン）
- 2023年7月5日 第2回全体ミーティング（オンライン）
- 2023年12月6日 第3回全体ミーティング（オンライン）
- 2023年12月12日 International Symposium on Data Science 2023 での活動発表
- 2023年12月15日 大学ICT推進協議会 2023年度 年次大会参加
- 2024年3月7日 第4回全体ミーティング（オンライン）

### 4.2 作業部会メンバー（2023年度）

- ◎南山 泰之 国立情報学研究所 オープンサイエンス基盤研究センター 特任助教  
三上 絢子 北海道大学附属図書館 管理課図書受入・目録担当  
○小林 裕太 千葉大学附属図書館 利用支援企画課利用支援企画グループ  
石山 夕記 一橋大学 学術・研究推進部学術情報課電子情報係係員  
岩井 雅史 信州大学附属図書館 附属図書館副課長／情報システム・学術情報（雑誌）グループ  
リーダー  
田中 幸恵 名古屋大学 教学事務部門附属図書館事務部 東山地区図書課 東地区図書統括グループ 係長  
西森 哲也 大阪大学附属図書館 学術情報整備課課長補佐  
○甲斐 尚人 大阪大学附属図書館 研究開発室 准教授  
有馬 良一 神戸大学附属図書館情報管理課電子情報グループ事務員  
○田辺 浩介 国立研究開発法人 物質・材料研究機構 技術開発・共用部門 材料データプラットフォーム データ基盤ユニット 主幹エンジニア  
朝岡 誠 国立情報学研究所オープンサイエンス基盤研究センター 特任助教  
古川 雅子 国立情報学研究所 情報社会相関研究系 助教 / オープンサイエンス基盤研究センター  
佐藤 知生 国立情報学研究所 学術基盤推進部学術コンテンツ課係員（研究データ基盤整備チーム）  
（兼）コンテンツ流通促進作業部会  
松野 渉 国立情報学研究所 学術基盤推進部学術コンテンツ課係員（研究データ基盤整備チーム）  
結城憲司 九州大学附属図書館図書館企画課長

◎ 主査

○ 副査（各チームリーダー）

※所属先は2024年3月時点の情報に基づく。